

第3回 自動物流道路に関する検討会

Eat Well, Live Well.



《ヒヤリング内容》

1. 味の素(株)の物流
2. 物流配慮の取組み
3. 自動物流道路について

2024年5月14日(火)

味の素株式会社 物流企画部 森 正子



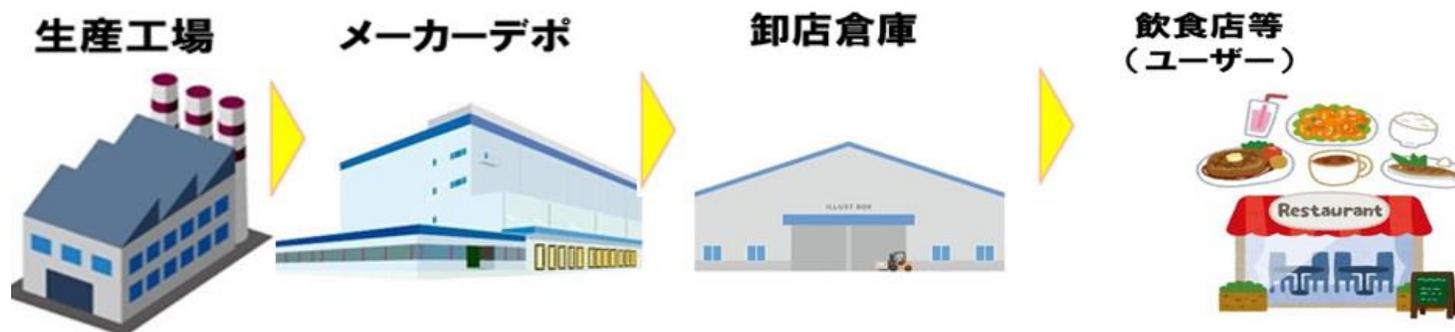
AjiPanda

1. 味の素(株)の物流

家庭用



外食用



加工用

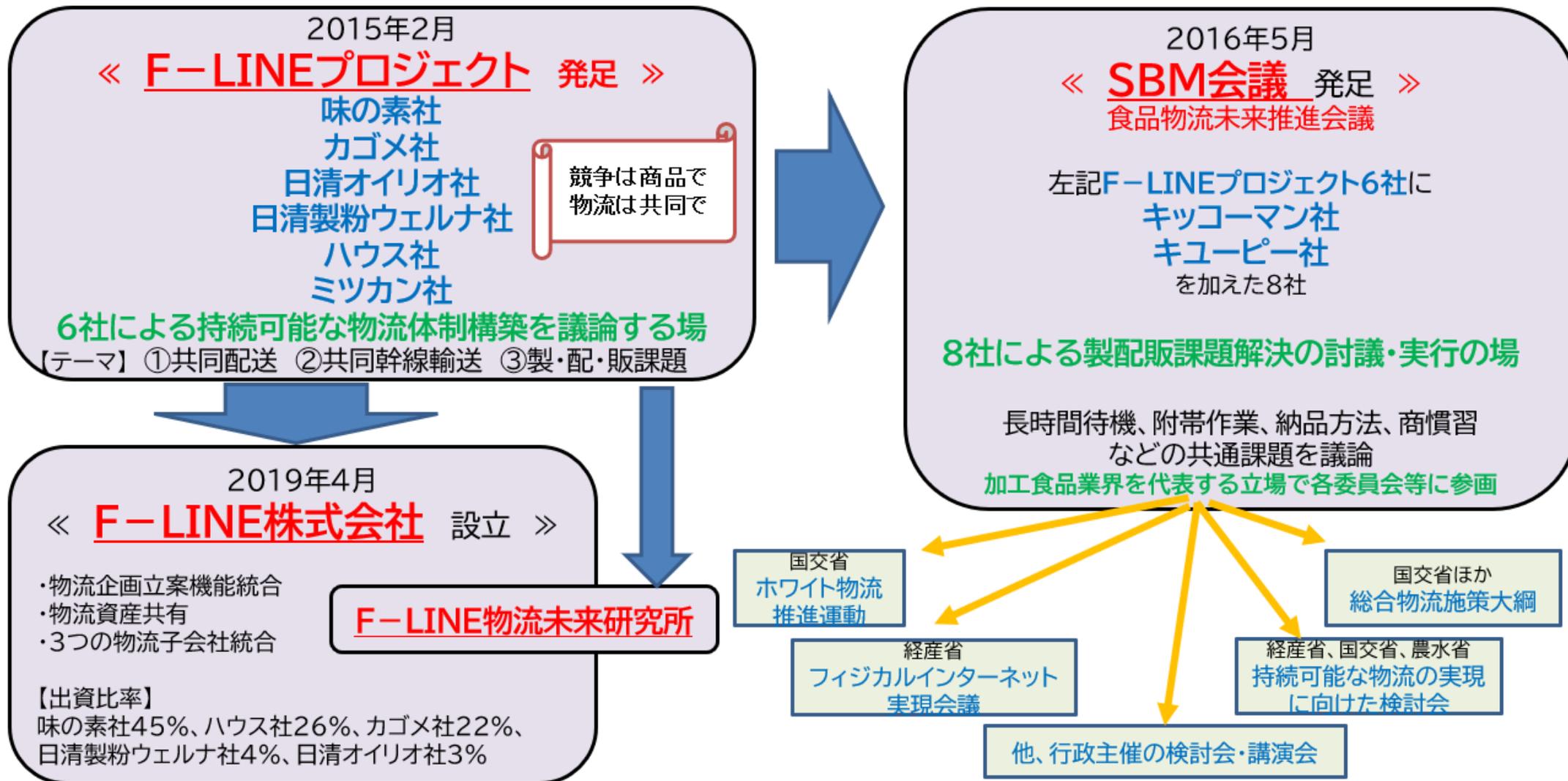


メーカーデポ: 各県・エリアに商品を供給するための在庫基地

2. 物流配慮の取組み

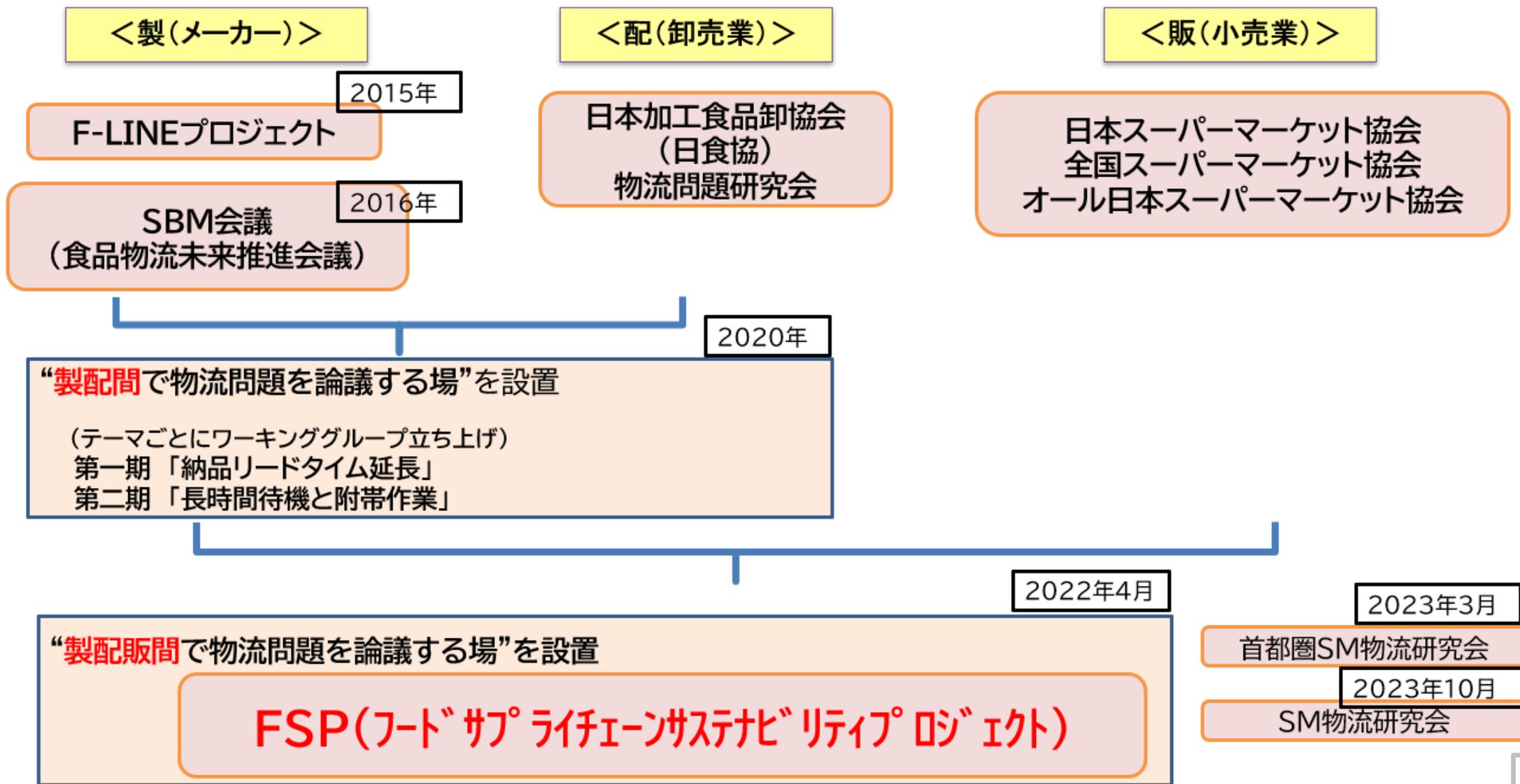
【同業他社との連携による改革】

水平連携の拡大



2. 物流配慮の取組み

「連携」の全体図



2. 物流配慮の取組み

【**個社**の改革】 味の素（株）の場合

赤字：今回の検討会に直結する取組み

- **モーダルシフト率** : 500km以上の長距離輸送については、90%強（75%船、15%鉄道貨物、10%トラック）
- **積載率向上** : 安定的に80%強でオペレーション
- **改善効果の見える物流費タリフ** : 「F-LINEタリフ」を2023年度から他社に先駆けて段階的に導入
 例) 手間のかかるものは高く、作業を改善したら安く！
- **BCP** : 輸送ルート of 複線化、多様化
 例) 本州から九州への長距離輸送は、現在4ルートで実施（2018年の西日本豪雨の教訓）
 山陽線、中国道、瀬戸内航路（大阪南港⇒北九州）、日本海航路（敦賀⇒博多）
 ※値段の高低に関わらず普段から使用しておくことがポイント
- **外装表示の標準化** : 味の素外装表示ガイドライン（「すべての項目を右上に！」を他社に公開⇒標準化へ）
- **賞味期限の年月表示** : 対象品目（賞味期限1年以上）の75%は、年月表示完了
- **外装サイズの標準化** : 2021年4月策定の「加工食品分野における外装サイズガイドライン」に則って粛々と実施
[guideline20210415.pdf \(jpi.or.jp\)](https://www.jpi.or.jp/guideline20210415.pdf)（日本包装技術協会ホームページ） など

2. 物流配慮の取組み

赤字：今回の検討会に直結する取組み

【同業他社との連携による改革】

- 共同物流の推進 ⇒ 共同配送、共同幹線輸送、物流会社との連携強化
- 商慣行改革に向けた目線合わせ
- 作業や書式等の共通化（ペーパーレス含む）によるオペレーションの効率化（無駄の削減）
- 他社との連携による上記「個社ごとの改革」の効果拡大化（一緒にやれば効果大！） など

【サプライチェーン全体での改革】 製（メーカー）・配（卸）・販（小売）にまたがる足元課題

- 納品リードタイム延長（サプライチェーン全体の効率化を目指して！）
- 長時間待機撲滅
- 附带作業撲滅（発側の仕事？着側の仕事？と議論はあるが、できるところから着手）
- 納品伝票のペーパーレス、ASN（事前出荷情報）、検品レス（紙、目、鉛筆からの脱却）
- 納品期限の緩和（1/2ルールの徹底）（とにかく統一しましょう！）
- 返品（不荷受け）基準の緩和（外箱に小さなキズで返品、中身に問題なし！は使いましょう） など

【行政や業界団体を巻き込んだ改革】 標準化

- 納品伝票の電子化
- 外装サイズ標準化
- コード体系標準化
- 外装表示の標準化

「言うは易し、行ふは難し」とは言うものの、「標準化、標準化……」と100回唱えても何も変わらない。まずは、進めること。
「千里の道も一歩から」

など

3. 自動物流道路について

《考慮すべき事項》

- 目的の明確化

ドライバー不足対策、標準化、BCP観点、など

- 標準化は必須

荷姿(パレット11)、データ(拠点コードや商品コード)、など

- 実際に使いたいと思えること

せっかく作っても使われなければ意味がない

主要幹線、地方配送、一貫輸送のどこをターゲットにするか

例) 北海道⇔東北を結ぶところ(青函トンネル)など

- 災害時の対応

分断されてしまった時のリカバリーも考える必要あり

- 将来あって良かったと思えること

当初はともかく、将来的に投資に対し、回収が担保できないと継続してゆかない

Eat Well, Live Well.



ご清聴、ありがとうございました。



AjiPanda